

投資哲学

- ▶ **なぜ投資に社会貢献を意識するのか？**
 - ▶ 投資には未来へ一票を投じる意味合いがある。
 - ▶ でも、投票権を持っているのは、ほんの一握り。
 - ▶ 投資家は社会貢献も意識して、投資活動を行うべきでは？
 - ▶ ただし、投資リターンを犠牲にするのは偽善。

- ▶ **投資を楽しんで続けるために**
 - ▶ 継続するのが何より大切な投資の世界だが、お金を追いかけるばかりでは味気ない。
 - ▶ 投資リターンが縦糸で、より良い未来への想いが横糸の織物を作るようなイメージを持ちたい。

投資活動の歩み

▶ 2008年

- ▶ 4月 坂本光司「日本で一番大切にしたい会社」との出会い
- ▶ 9月 リーマン・ブラザーズ破綻
- ▶ 12月 Johnson & Johnson 株へ投資

▶ 2009年

- ▶ 6月 「ワクチン債」へ投資

▶ 2010年

- ▶ 1月 投資の意志決定にCSRレポートを使い始める
- ▶ 3月 欧州投資銀行「みらいの地球債」へ投資
- ▶ 8月 NPO法人 社会的責任投資フォーラム の運営に参加

▶ 2011年

- ▶ 3月 東日本大震災
- ▶ 8月 「セキユリテ被災地応援ファンド」へ投資を開始
- ▶ 10月 鎌倉投信「結い2101」へ投資を開始

坂本光司「日本でいちばん大切にしたい会社」

▶ 本の概要

▶ 坂本教授は、企業経営は「五人に対する使命と責任」を果たすための活動であると説き、その取り組むべき順番として

1. 社員とその家族を幸せにする
2. 外注先・下請企業の社員を幸せにする
3. 顧客を幸せにする
4. 地域社会を幸せにし、活性化させる
5. 自然に生まれる株主の幸せ

▶ と掲げ、フィールドワークで出会った「いい会社」の紹介

▶ 決算書など数字ばかり見て投資をしていたことへの反省

Johnson & Johnson 株へ投資

- ▶ Our Credo とそれにまつわるエピソードへの共感
 - ▶ 3代目社長ロバート・ジョンソンの"Try Reality“(1935)
 - ▶ 「過去数年間の苦しみの中で、人々は本物の経済的貢献と社会的価値を生み出す企業のみが成功する権利を持つということを知り、それを確信してしまった。恒常的な成功は、より高尚な企業哲学を遵守していくことによつてのみ可能になる。顧客への奉仕が一番に、社員とマネジメントに対する奉仕が次に、株主が最後にくるという事を認識し、社会に対する包括的な責任を受け入れそれを全うすることが、企業のより高度な利益の追求方法なのだ。」
- ▶ 問題意識
 - ▶ 市場に出回っている株式を売買するだけでは、自分の資産がどう社会につながっているのか見えにくい。

社会貢献型債券

▶ 投資家としてのメリット

1. 資金使途が明確。
2. 債券の利息が国債利回りと変わらない。

ワクチン債、みらいの地球債ともに豪ドル建て。当時、運用資産に豪ドルがなかったこともあり、通貨分散を考慮に入れて、普通預金よりも社会貢献型債券に投資した。

▶ 問題意識

▶ ワクチン債

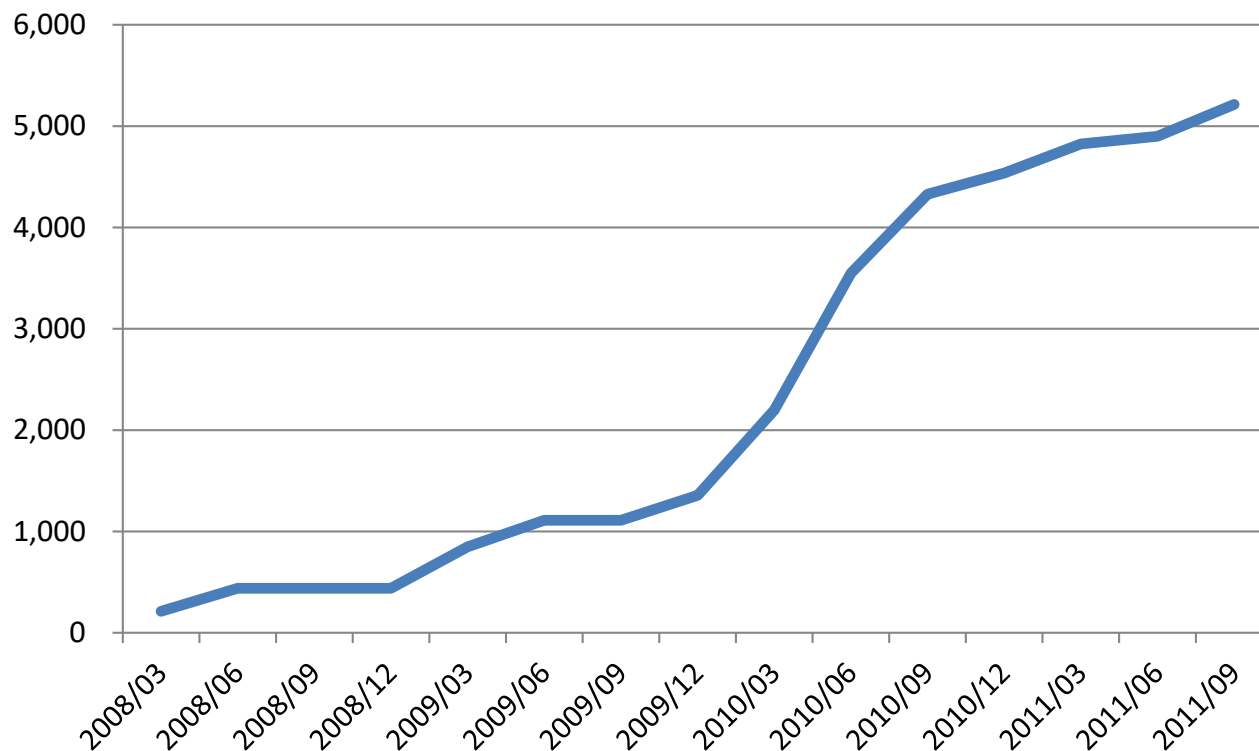
- ▶ ワクチン接種だけに貢献しても、今度は食糧問題？

▶ みらいの地球債

- ▶ 資金使途は、主にEU圏内の自然エネルギー開発プロジェクトへの投融资。本当は日本の事業を支援したいのだが...

参考資料:社会貢献型債券の発行残高推移

▶ 2011年9月現在 36本 5,124億円



単位: 億円 ※出典 社会的責任投資フォーラム Webサイト

セキュリテ被災地応援ファンド

▶ 震災後の新たな投資のかたち

- ▶ 自ら応援したい企業を選ぶことができる。
- ▶ すべて食品関連企業で、食べることが大好きな私にピッタリ。
- ▶ 復興後、最初の商品が出資者に届けられる。
- ▶ 1口10,500円 寄付5,000円、出資5,000円、手数料500円

▶ 他の資金的な支援と比べると

- ▶ 赤十字やユニセフなどを通じた寄付は、所得控除を受けられるものの、天引きされる手数料が高く、被災者の手に渡る金額は???
- ▶ 被災企業へ資金が迅速に届き、すでに事業開始まで至った企業も。

鎌倉投信「結い2101」

▶ 注目点

- ▶ 「日本でいちばん投資したい会社」の共感からできたファンド
- ▶ 受益者を集めての年次総会、投資先の見学ツアーを通じて、投資家と運用担当者が価値観を共有できている。
 - ▶ マーケティングのためだけに、環境や社会重視を掲げる他のファンドとの決定的な違い。



- ▶ 相場環境が悪いときでも(悪いときこそ)、資金が流入する。
 - ▶ 3月の大震災やヨーロッパの金融危機のあおりを受けて、多くのファンドが預かり資産を減らす中、預かり資産を増やし続ける。



- ▶ 投資家の「共感」がアクティブ・ファンド復権の鍵を握る？